

# 【プログラム#2】 海外での日本の旧車人気とは？

10月30日(水) 10:50~11:55

ファシリテーター

石井 守  
SUBARUテクノ(株)

スピーカー 1

Derek E. Moore  
Curator of Collections, Lane Motor Museum

スピーカー 2

Jon Murden  
(Chief Executive, National Motor Museum)

## なぜ1980年代や1990年代の日本車が今、ヨーロッパやアメリカで人気なのか？

### スピーカー：Derek E. Moore (Lane Motor Museum)

1950年代後半にアメリカ市場に初めて投入されて以来、特に1970年代以降日本車は顕著な人気を集めてきました。そして、過去20年間、アメリカの自動車文化において1980年代と1990年代の日本車への熱狂が顕著に広がっています。このプレゼンでは、日本車人気の高まりに寄与している要素を多角的なアプローチで探求します。最新の研究を総合し、アメリカ在住の一部の日本車オーナーへの調査やインタビューを行い、全国各地で盛り上がっている輸入車専門のショーのトレンドを検証します。分析の結果は、日本車の台頭は、ポップカルチャー内での共感、その高い品質、そしてこの時代の車両の独特な特性によるものと示しています。調査結果は、アメリカにおける日本車の人気が続く上昇傾向にあることを示し、80年代~90年代以外の時代の日本車への興味も増していることを示唆しています。

## 英国における日本のクラシックカーカルチャー： 英国の自動車博物館の新しい章となるか？

### スピーカー：Jon Murden (National Motor Museum)

20世紀の中頃、イギリスでヘリテージカーブームが定着する中で、最初の世代の自動車愛好家たちは自分たちが懐かしく思い、若い頃に所有したいと思う車に焦点を当ててきました。その結果、イギリスの自動車博物館は非常にヨーロッパ中心主義的な性格を持つに至りました。しかし、1970年代以降、日本のメーカーはイギリスの自動車やバイクの所有者たちの生活にますます大きな役割を果たし、1980年代にはイギリスを拠点とする自動車産業の中核企業として国内のメーカーに取って代わりました。そして、2020年代に入り、当時育った世代がヘリテージカー愛好者の中でますます重要な存在となるにつれて、彼らの日本車に対する親しみや愛情がイギリスのクラシックカーシーンを変革しています。ドリフトシーンからにぎやかな自動車やバイクのイベントに至るまで、日本の自動車文化は、「革新、スタイル、アクションの独特な融合を持つ魅力的で活気ある現象」として解釈できます。イギリスの自動車博物館がこの日本車への情熱の成長をどのように受け入れ、反映し、解釈するかは、彼らのコレクションや解釈の正統性に対する重要な課題であり、新しいストーリーを伝え、新しいイベントを開催し、新しい観客を引き付ける素晴らしい機会でもあります。